

ご使用の前に必ずお読み下さい。

この資料では、弊社製品 DACS-1500H 1700 2500 2500K 2600 8200 9600 E350 15BXシリーズ および RM5500シリーズ を接続するパソコンに、デバイスドライバをインストールする手順を説明しています。デバイスドライバは、これら弊社製品のすべてに共通で、インストール手順も同じです。

ダウンロードページのフォルダ「**CDM20814**」にあるドライバが、WHQLマイクロソフト社認証済のドライバです。

Windows 10, 8, 7, Vista, XP に対応しています。このドライバは複合版ドライバです。複合版ドライバについては後述の説明を参照ください。

それぞれのOSごとにインストール手順が異なりますので、必ず、ご使用のOSに対応したインストール方法をご覧ください。

******* インストール前にご確認ください。 *******

すでに、弊社USB機器のドライバがインストールされている場合、機器を接続すると自動的にドライバがインストールされますので、ドライバの再インストールは不要です。ただし、Windows XP の場合は、インストールウィザードがスタートする製品があります。ウィザード画面の指示に従ってインストールしてください。

また、旧バージョンのドライバがインストール済みの場合は、本資料後半にある「ドライバのアンインストール方法」をご覧ください。ドライバを削除し、パソコンを再起動した後に、インストールを実施してください。

複合版ドライバについて

ドライバには、①仮想COMドライバ ②ダイレクトドライバ の2種類があります。旧ドライバ (Ver.1) では、使用するドライバの種類により、いずれかを選択してインストールしていましたが、複合版ドライバ (Ver.2) では、インストール時に選択する必要がなくなりました。複合版ドライバをインストール後には、仮想COMの関数とダイレクト版関数のいずれもアプリケーションプログラムから使用できるようになります。(ただし、同時に使用することはできません。)

また、複合版ドライバでは、ダイレクト版のみを使用する場合でも、シリアルポートが1ポート (たとえばCOM3などが) 追加になります。シリアルポートを追加したくない場合は、各OSのインストール手順にて、旧バージョンのダイレクトドライバを指定して、ダイレクトドライバのみをインストールするようにしてください。新旧いずれのドライバを使用しても、機能の差異はありません。

- ① 弊社製品 DACS-2500などのデバイスを、パソコンのUSBポートに接続します。
以下、デバイスドライバ更新手順にて、ドライバをインストールします。
- ② デバイスマネージャーを開きます。
デバイスマネージャーの「ほかのデバイス」に、接続したデバイスがあるのを確認。
たとえば、DACS-2500を接続した場合には、
「DACS-2500 V1.0」というデバイス名があります。

該当するデバイス名がない場合は、以前に弊社製品のデバイスをインストールしたことがあるなどにて、ドライバがインストール済みとなっていることが考えられます。
この場合は、⑦項の確認をご覧ください。
⑦項の確認ができれば、あらたにドライバをインストールする必要はありません。
- ③ 弊社ホームページのダウンロードページから、
デバイスドライバをダウンロードし、Cドライブなどにコピー後、⑥項の参照にて、
コピーしたフォルダーを指定してください。
- ④ 該当するデバイス名を右クリックにて表示される画面で、
「ドライバーソフトウェアの更新」を選択します。
- ⑤ 「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します」を選択。
- ⑥ 「参照」をクリックして、③項でドライバをコピーしたフォルダを選択。
「サブフォルダも検索する」にチェックマークがあることを確認します。
「次へ」をクリック。
「ドライバソフトウェアのインストールを終了しました」という表示画面を閉じます。
- ⑦ デバイスマネージャでユニバーサルシリアルバスコントローラに
USB Serial Converter があるのを確認してください。
また、ポート（COMとLPT）にCOMポートが追加になります。
このCOMポートが、仮想COMドライバを使用する場合のポートになります。
これにて、ダイレクト版、仮想COM版共に使用可能となります。

ドライバのインストール方法 Windows 7

- ① 弊社製品 DACS-2500などのデバイスをパソコンのUSBポートに接続します。
- ② OSがデバイスを認識して、ドライバインストールを試みますが、ドライバ不明のため、インストールに失敗したメッセージが表示されます。
- ③ 以下、デバイスドライバ更新手順にて、ドライバをインストールします。

コンピュータ（右クリック） → プロパティ → デバイスマネージャー の順序にて、デバイスマネージャーを開きます。

デバイスマネージャーの「ほかのデバイス」に、接続したデバイスがあるのを確認。たとえば、DACS-2500 を接続した場合には、

「DACS-2500 V1.0」というデバイス名があります。

該当するデバイス名がない場合は、以前に弊社製品のデバイスをインストールしたことがあるなどにて、ドライバがインストール済みとなっていることが考えられます。

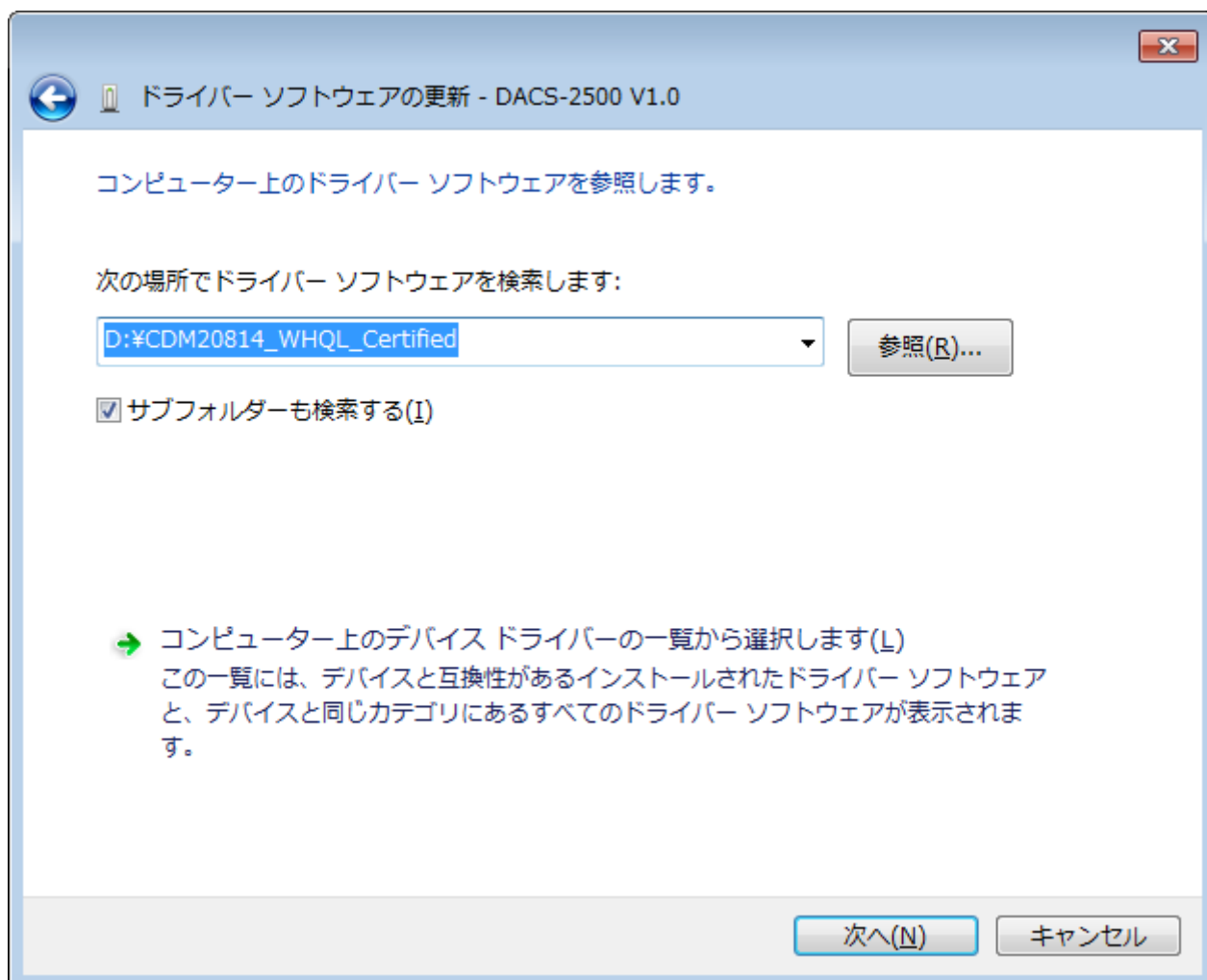
この場合は、④項の確認をご覧ください。

④項の確認ができれば、あらたにドライバをインストールする必要はありません。

このデバイス名を右クリックにて表示される画面で、

「ドライバーソフトウェアの更新」を選択する。

「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します」を選択する。



「参照」をクリックして、弊社HPよりダウンロードしたファイルの「CDM20814_WHQL_Certified」フォルダを指定し、「次へ」をクリック。

「ドライバソフトウェアのインストールを終了しました」という表示画面を閉じる。以上で、ダイレクト版ドライバのインストールが終了します。

ここで、インストールエラーのポップアップメッセージが出ては無視してください。

つづいて、上記と同じ手順にて、デバイスマネージャの「ほかのデバイス」にある USB Serial Port のドライバを更新します。この手順にて、仮想COM版ドライバをインストールすると、すべてのドライバのインストールが完了します。

- ④ デバイスマネージャでユニバーサルシリアルバスコントローラに USB Serial Converter があるのを確認してください。また、ポート（COMとLPT）にCOMポートが追加になります。このCOMポートが、仮想COMドライバを使用する場合のポートになります。これにて、ダイレクト版、仮想COM版共に使用可能となります。

**** ご注意 **** USB機器およびUSBインターフェイス基板に使用しているチップメーカーのFTDI社ホームページには、自動インストール可能な実行プログラム形式のドライバが掲載されています。このモジュールを使用すると、簡単な手順にてデバイスドライバをインストールできますが、ドライバをアンインストールすることができません。後述のアンインストールツールを使用しても、無効となります。自動インストール可能な実行プログラムを、FTDI社ホームページよりダウンロードして使用しないようにしてください。 ****

ドライバのインストール方法 Windows Vista

- ① 弊社製品 DACS-2500などのデバイスをパソコンのUSBポートに接続します。
- ② OSがデバイスを認識して、ドライバインストール画面を表示します。
- ③ 画面表示にしたがつて、インストールをすすめてください。

「ドライバソフトウェアを検索してインストール」を選択。
「オンラインで検索しません」を選択。
「他の方法を試します」を選択。
「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します」を選択。
「次の場所で、ドライバソフトウェアを検索します」にて、
弊社HPよりダウンロードしたファイルの
「CDM20814_WHQL_Certified」フォルダを指定し、
「次へ」をクリックする。

終了画面を閉じる。

以上で、ダイレクト版ドライバのインストールが終了します。

つづいて Serial Port（仮想COM版ドライバ）のインストール画面となりますので、再び、同じ手順にてドライバをインストールします。

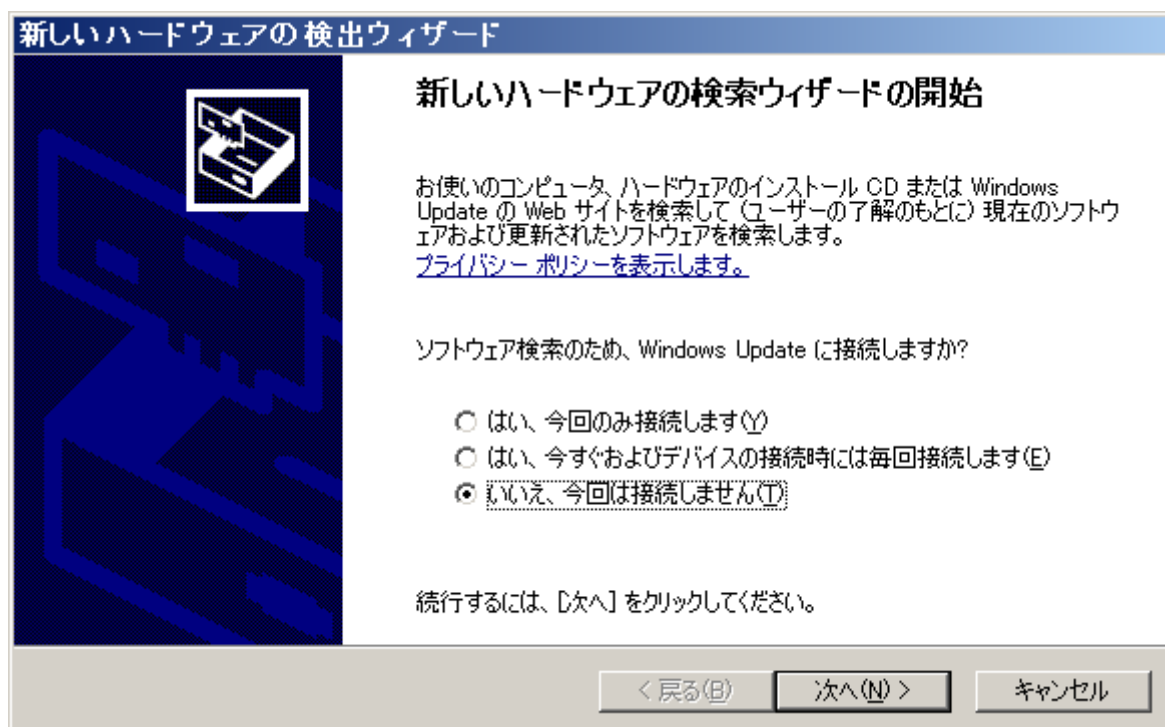
仮想COM版ドライバをインストールすると、すべてのドライバのインストールが完了します。

旧ドライバのたとえばダイレクトドライバのみを選択してインストールする場合は、上記の方法ではエラーとなりますので、Windows7でのインストール方法にて説明している、ドライバの更新にてインストールしてください。

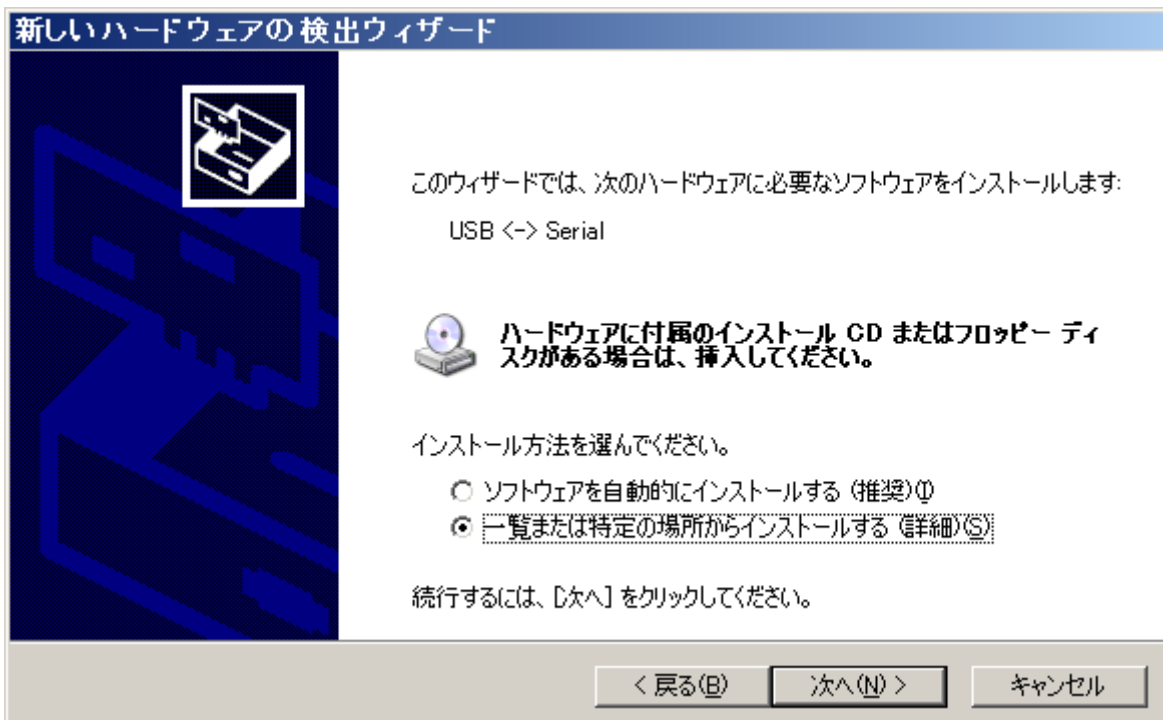
また、新旧ドライバの入れ替えのため、アンインストール後の再インストールでエラーとなる場合も、同様にドライバ更新にてインストールしてください。エラーとなる場合、もう一度同じ手順でインストールすると正常終了となる場合があります。

ドライバのインストール方法 Windows XP

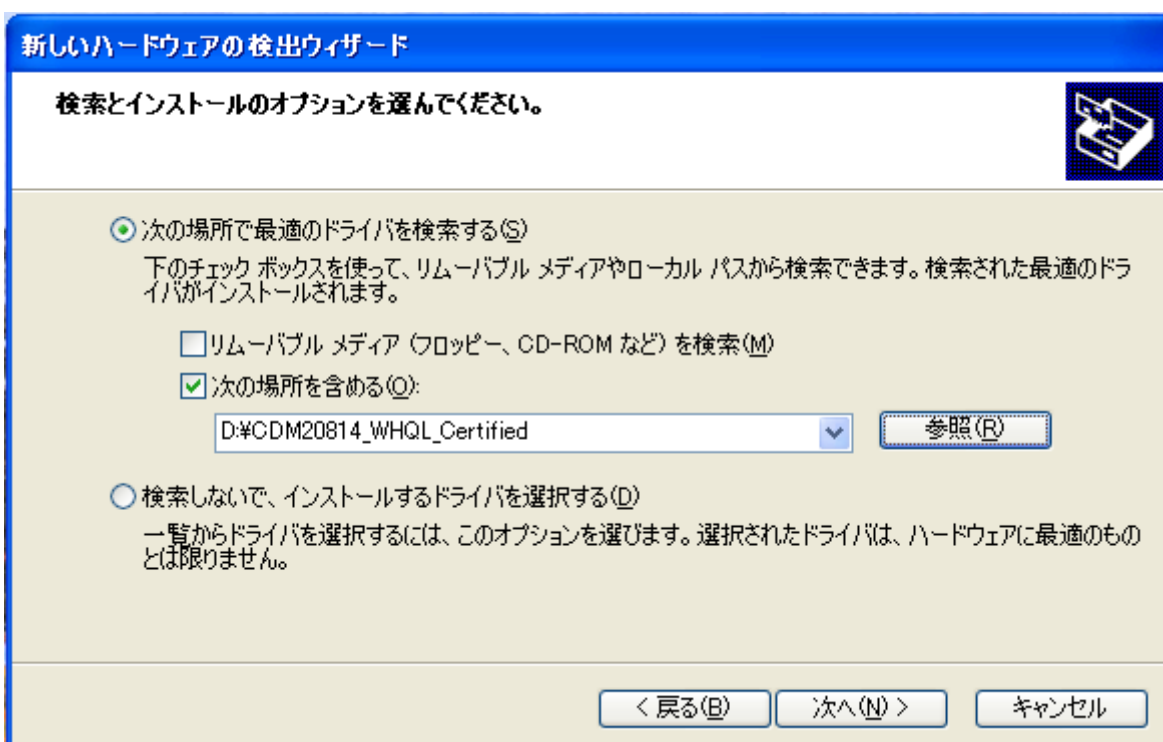
- ① 弊社製品 DACS-2500などのデバイスをパソコンのUSBポートに接続します。
- ② OSがデバイスを認識して、ドライバインストール画面を表示します。
- ③ 画面表示にしたがって、インストールをすすめてください。



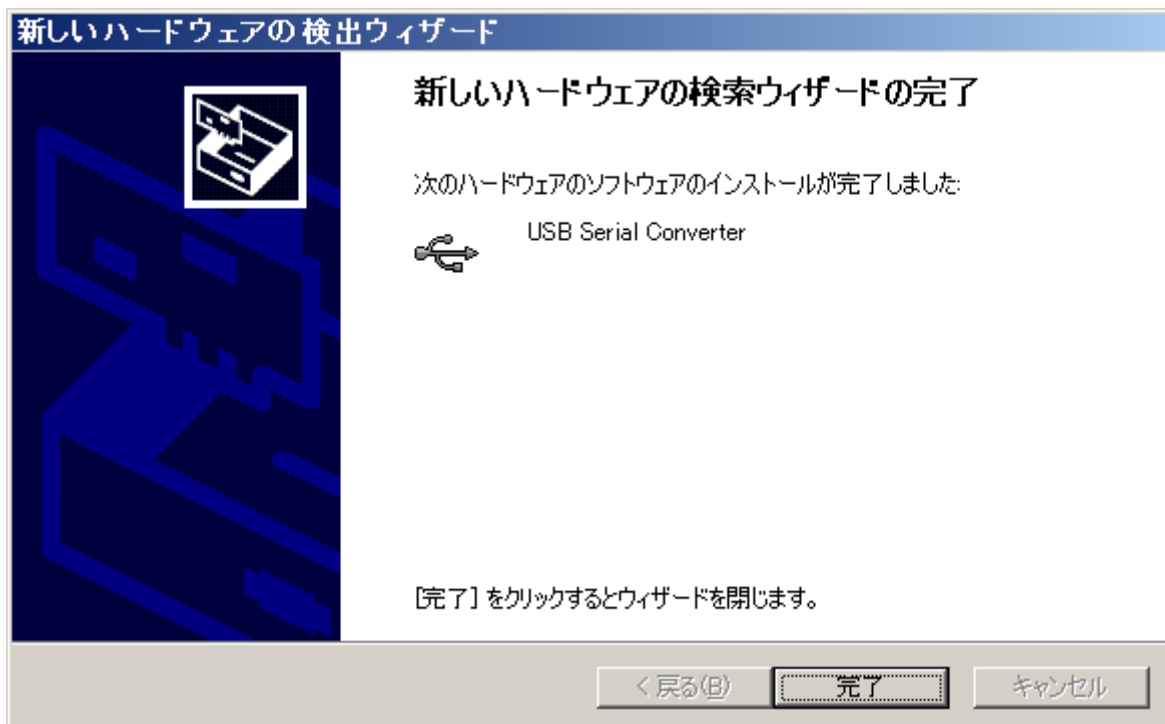
「いいえ、今回は接続しません」を指定し、「次へ」をクリック。



「一覧または特定の場所からインストールする」を選択し、「次へ」をクリック。



「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択し、
「次の場所を含める」のみにチェックマークを入れる。
「参照」をクリックして、弊社HPよりダウンロードしたファイルの
「CDM20814_WHQL_Certified」フォルダを指定し、
「次へ」をクリック。



「完了」をクリックし、インストールを終了します。
以上で、ダイレクト版ドライバのインストールが終了しました。

つづいて Serial Port（仮想COM版ドライバ）のインストール画面となりますので、再び、同じ手順にてドライバをインストールします。仮想COM版ドライバをインストールすると、すべてのドライバのインストールが完了します。

ドライバのアンインストール方法

Windows 10, 8, 7 の場合は、システムの復元機能を利用して、インストール前の状態に戻すのが最も簡単な方法です。

システムの復元機能を使用しない場合は、次のような方法となります。

- ① D A C S - 2 5 0 0、1 5 B X P、1 5 B X Wなどのデバイスを、パソコンからはずしてください。
- ② 弊社HPよりダウンロードしたファイルのルートディレクトリにある **CDMUninstaller.exe** を、Cドライブのルートディレクトリにコピーします。
- ③ コマンドプロンプトを起動します。
起動手順 プログラム ---> アクセサリ ---> コマンドプロンプト
- ③ コマンドラインに `cd \` と入力して、cドライブのルートに変更します。
(`\`はスペース `↵`はEnter)
- ④ `CDMUninstaller \0403 \6001 \-1` と入力します。
(`\`はスペース `-1` はマイナスと英小文字のエル `↵`はEnter)

通常は、以上の処理にてアンインストールが完了します。新旧ドライバを入れ替えるような場合で、このあとのドライバの再インストールが正常に行えないことがあります。このような場合は、画面表示の削除情報を確認し、次のような処理を実施してください。

```
C:¥>CDMUninstaller 0403 6001
DeviceInstanceId : FTDIBUS¥VID_0403+PID_6001+DSB06000A¥0000
Device Removed!
DeviceInstanceId : USB¥VID_0403&PID_6001¥DSB06000
Device Removed!
Removed 2 devices.
Deleting INF Files...Failed to delete: C:¥WINDOWS¥inf¥oem27.inf
Failed to delete: C:¥WINDOWS¥inf¥oem28.inf ←
Done
Deleting DLL Files...
Could not find ftbusui.dll
Could not find ftcserco.dll
```

セットアップ
情報の削除に
失敗した例

画面例のようにセットアップ情報（～.inf ～.pnf）が削除されない場合、C:¥WINDOWS¥inf ディレクトリ（注1）にある ～.inf ～.pnf ファイルを強制的に削除してください。下図の例では oem27.inf oem28.inf ですが、インストールしたパソコンごとに、これとは異なるファイル名ですので、画面に表示（注2）しているファイル名を確認して、該当するセットアップ情報のみを削除するようにしてください。セットアップ情報の削除に失敗した表示となっていなくても、削除したことになっている ～.inf ～.pnf を確認し、削除されていない場合は、同様に強制的に削除してください。

（注）OSによっては画面に表示が残りません。

CDMUninstaller.exe のある同じディレクトリに作成されるログファイル log_xx-xx-xxxx.txt をご覧ください。（xx は日付 たとえば24-12-2009）以前にアンインストールを実行していて、すでにログファイルが作成されている場合は、ログファイルを削除してからアンインストールを実行してください。

製造販売

ダックス技研株式会社

ホームページ <http://www.dacs-giken.co.jp>

DACSCDMINST80326A